

2022年3月期 通期 決算説明会



 **コニシ株式会社**

【 2022年3月期 決算概況 】

前期比

売上高	113,671百万円	(+ 5.5%)
営業利益	7,298百万円	(+ 3.1%)
経常利益	7,822百万円	(+ 5.4%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,135百万円	(+ 4.1%)

- ✓ 売上・利益ともに過去最高を更新
- ✓ 「ボンド」は原材料価格高騰の影響を大きく受けたが、「化成品」と「工事事業」が利益を大きく伸ばし牽引。

◆売上高、利益で過去最高を更新

※2022年3月期から「収益認識基準」を適用しております。
2021年3月期は遡及適用後の数値を記載しております。

※()内は適用前の売上高

「収益認識基準」適用後

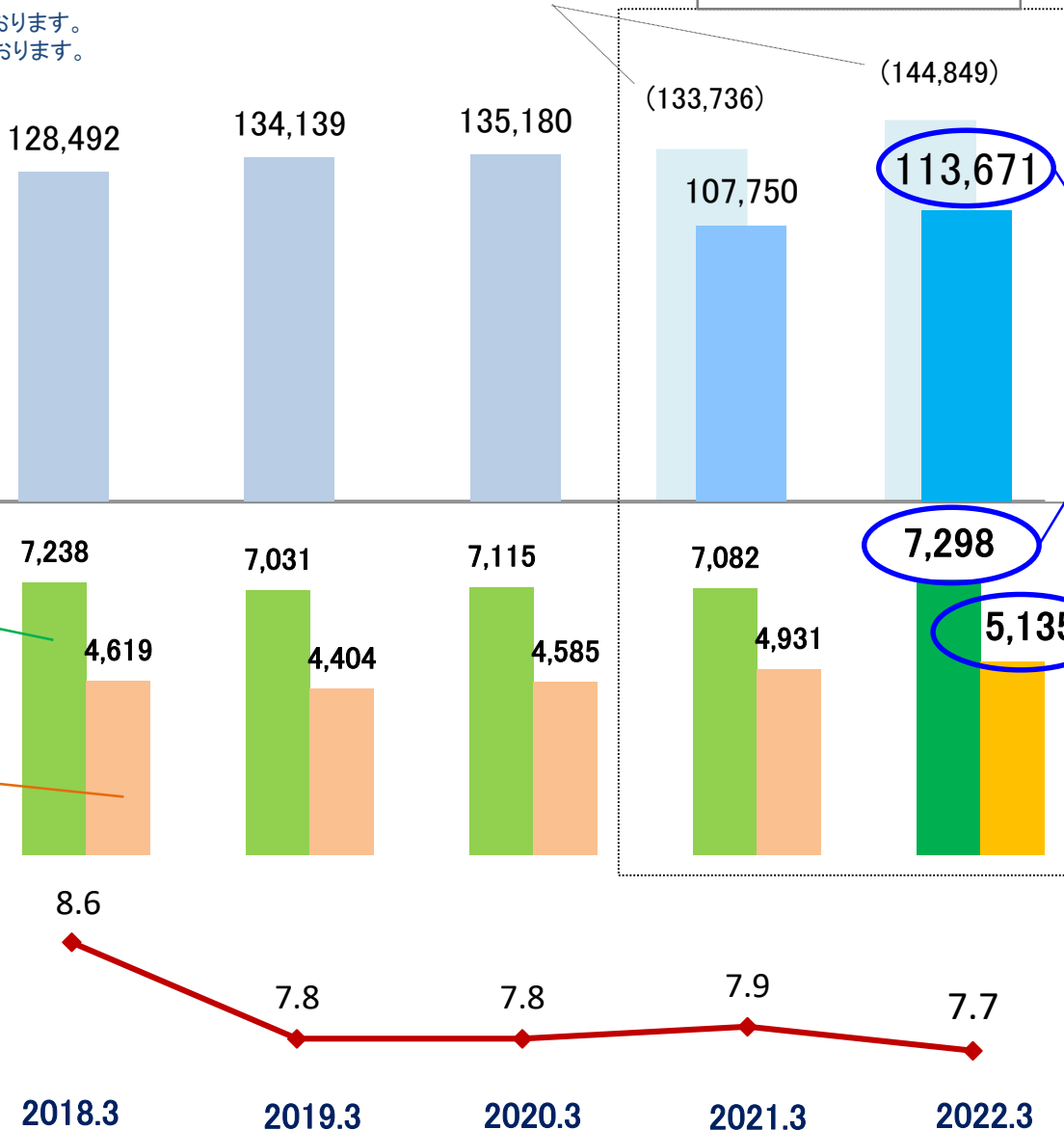
◆売上高

(単位:百万円)

◆営業利益

◆親会社株主に帰属する
当期純利益

◆ROE(%)



「収益認識基準」適用

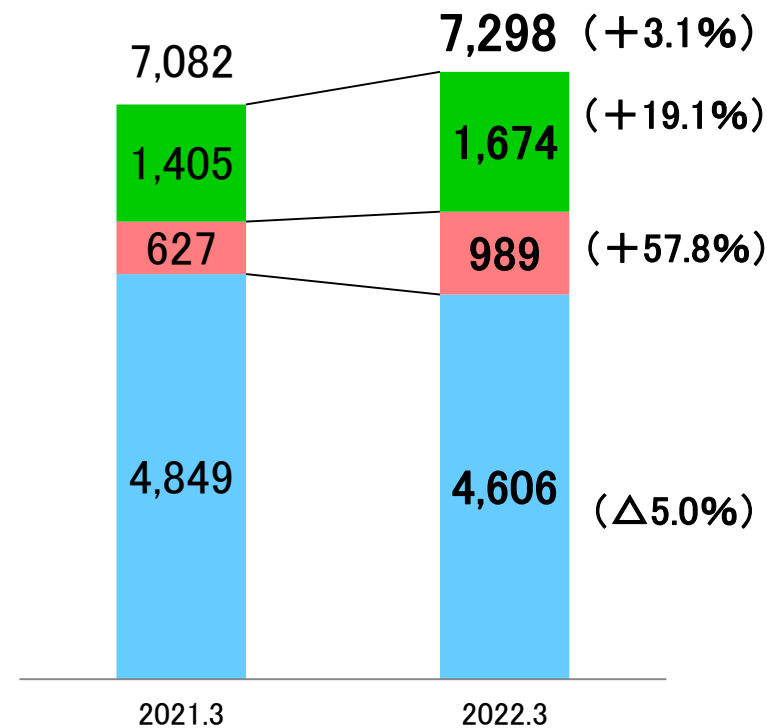
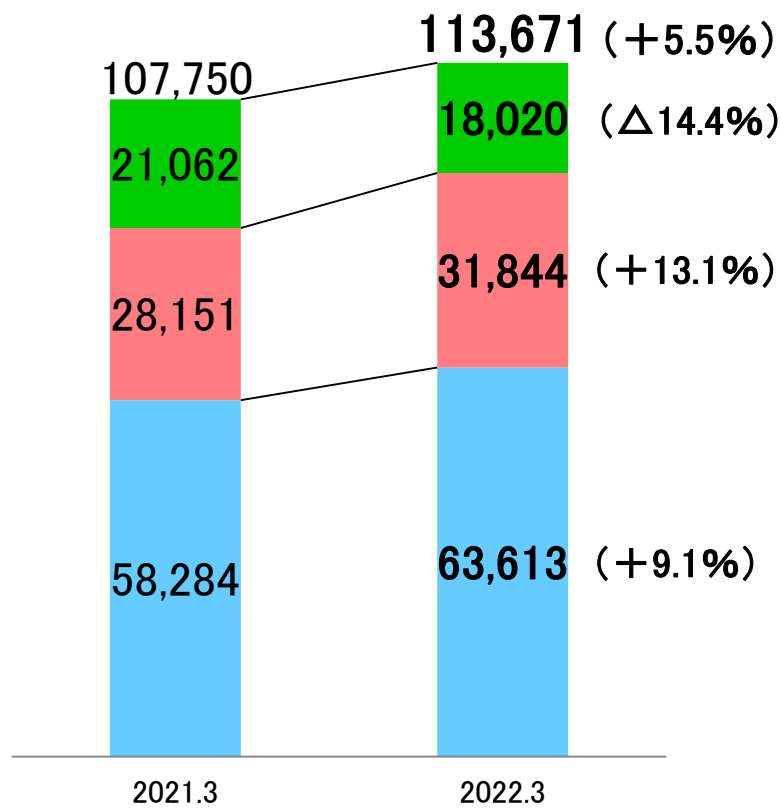
売上高

- ・「ボンド」「化成品」は、主要市場での需要が回復し、大きく伸長
- ・「工事事業」は、前期の大型案件により減少

営業利益

(単位:百万円 ()内%は前期比)

- ・「ボンド」は、原材料価格高騰の影響を受け減益
- ・「化成品」は、主要市場での売上増加により大幅増
- ・「工事事業」は、高利益工事の獲得で大きく増加



ボンド



化成品



工事事業

(グラフ内には「その他」は記載しておりません)

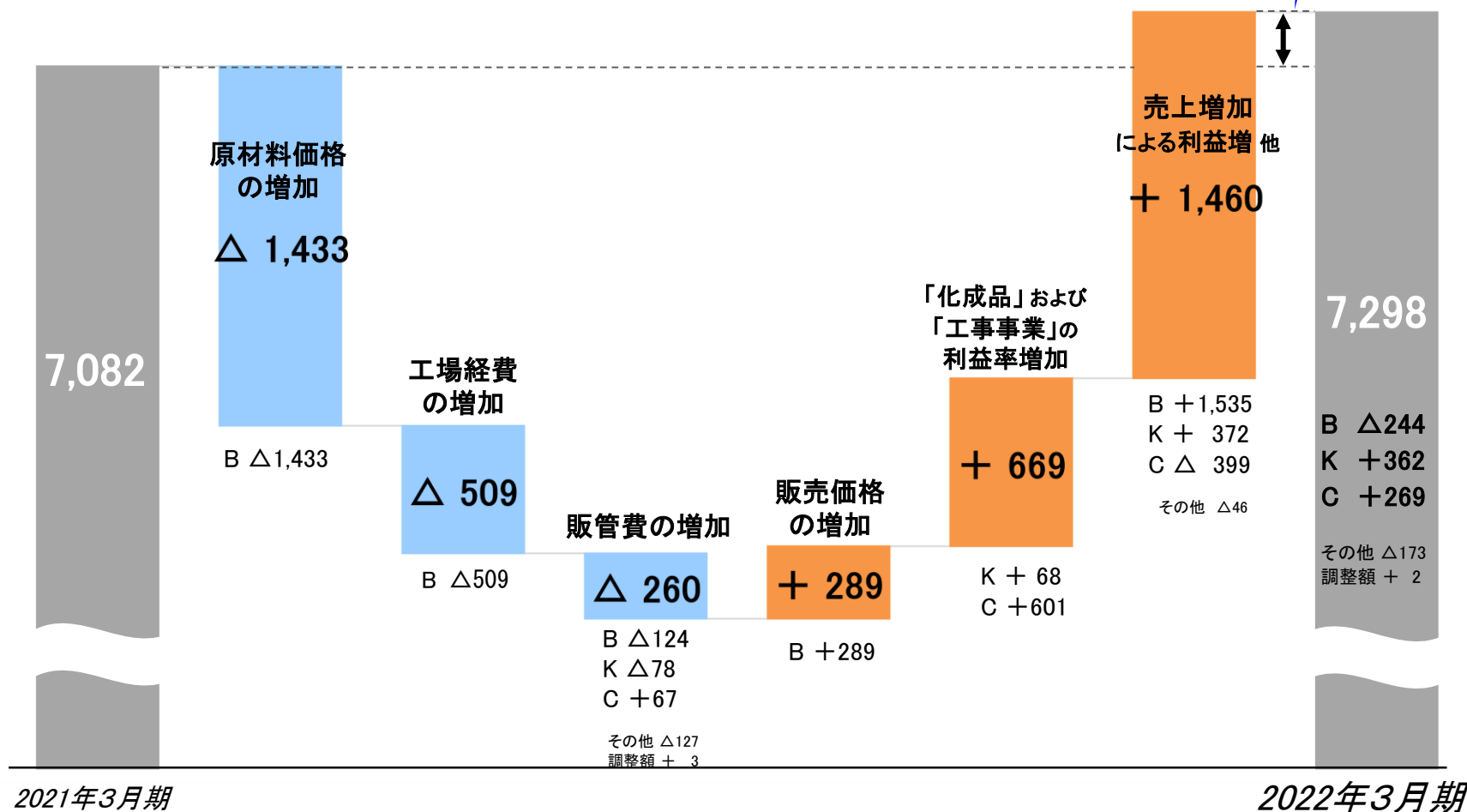
営業利益の主な増減要因(連結)

4

営業利益

(単位:百万円 ()内%は前期比)

+216百万円(+3.1%)

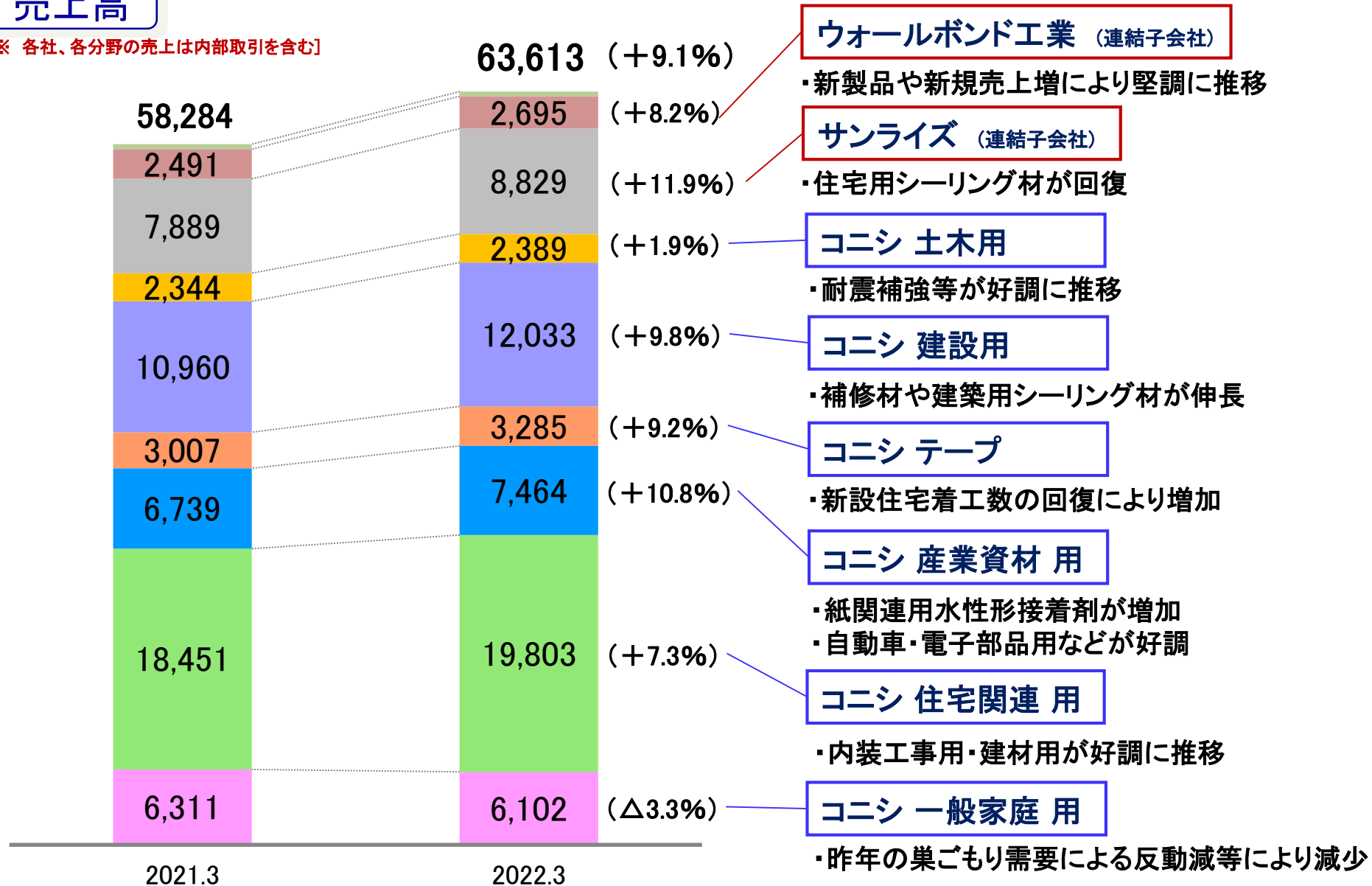


B = ボンド K = 化成品 C = 工事事業

売上高

(単位:百万円 ()内%は前期比)

[※ 各社、各分野の売上は内部取引を含む]

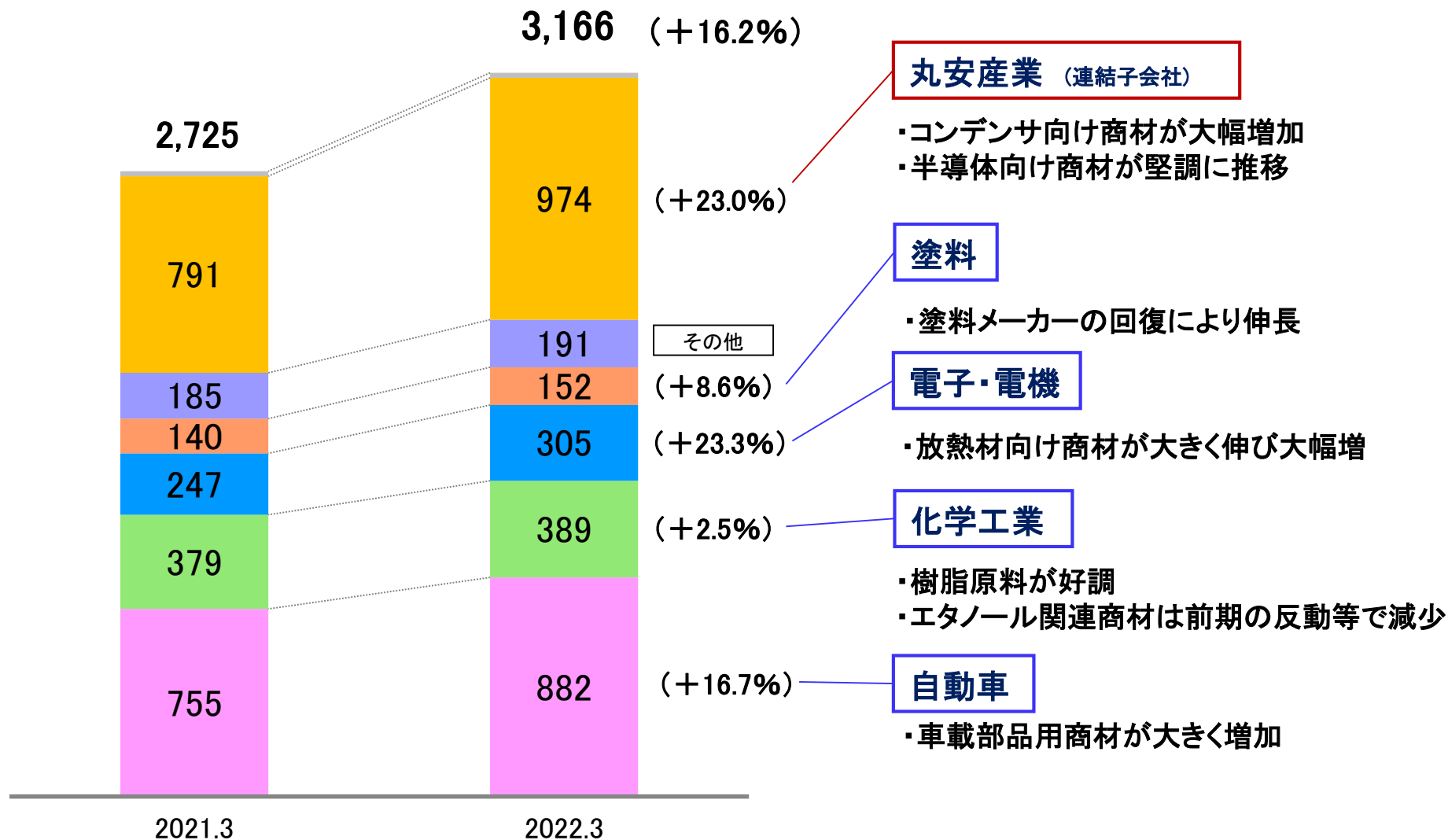


売上総利益

※化成品セグメント(商社部門)は「売上総利益」で表記しております

(単位:百万円 ()内%は前期比)

[※ 各社、各分野の売上総利益は内部取引を含む]

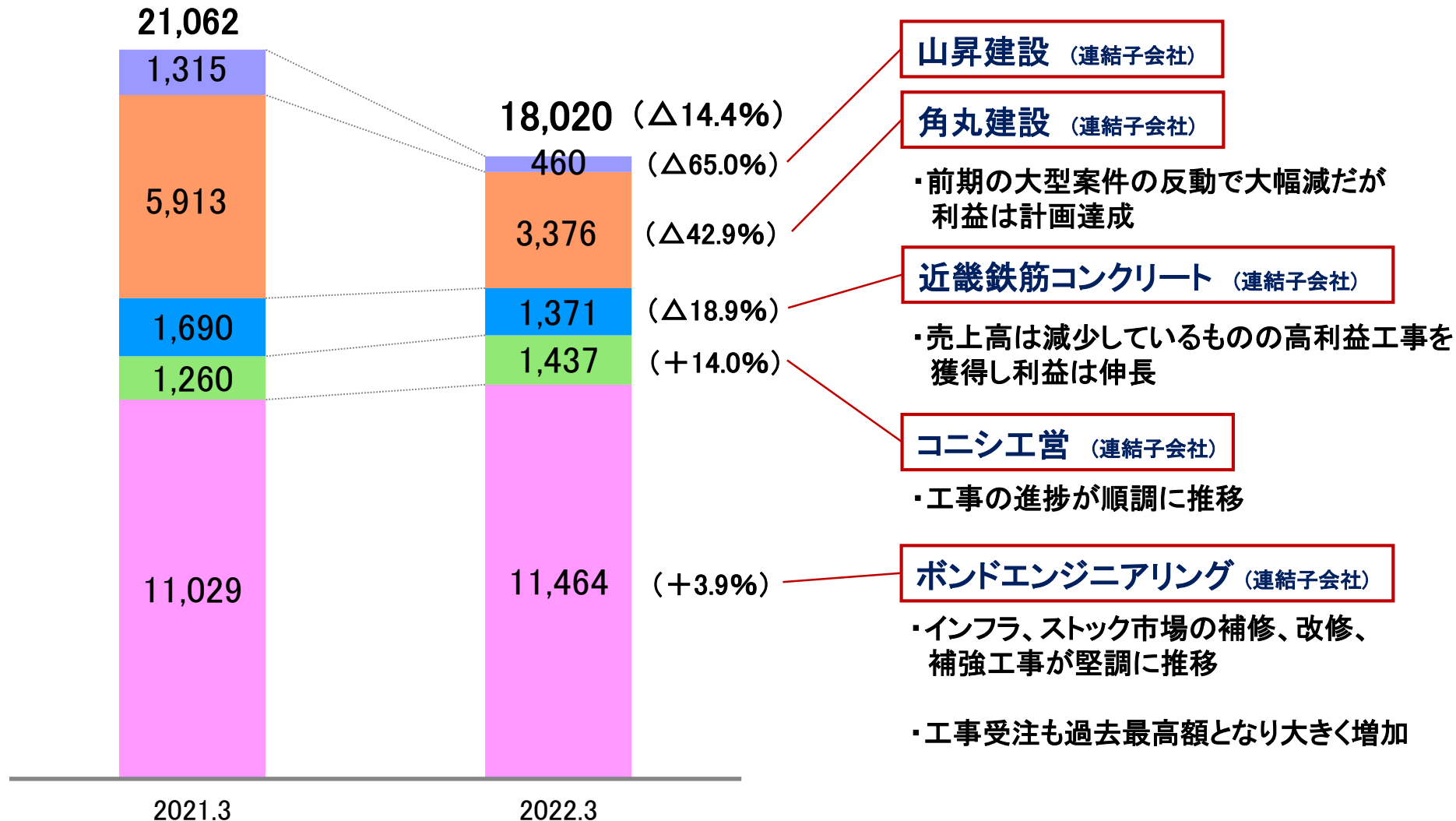


売上高

「収益認識基準」適用

(単位:百万円 ()内%は前期比)

[※ 各社の売上は内部取引を含む]



【 2023年3月期 計画について 】

「収益認識基準」適用

(単位:百万円)

	2022年3月期 通期	2023年3月期 通期予想	増減率 (前期比)
売上高	113,671	122,000	+7.3%
(参考)「収益認識基準」適用前	(144,849)	(154,500)	(+6.7%)
営業利益	7,298	6,950	△4.8%
経常利益	7,822	7,250	△7.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,135	9,600	+86.9%

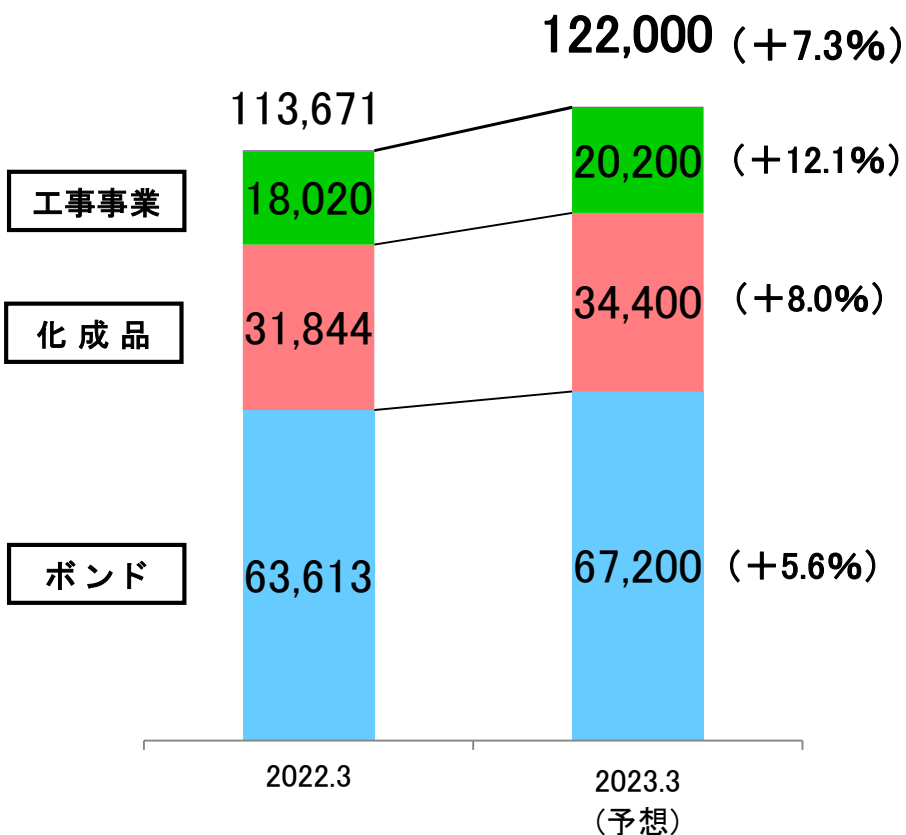
✓ 売上高は好調に推移し、増収となる見込み

✓ 営業利益、経常利益は「ボンド」での原材料価格高騰の影響を大きく受けることを見込み、減益予想
【国産ナフサ価格】 56,600円/kl(2021年度実績) → 85,000円/kl(2022年度予測)

✓ 当期純利益が大きく変動している要因は、不動産の譲渡による固定資産売却益として、
第2四半期に 4,986百万円(税引き後)が発生するため。(※2021年8月24日開示)

売上高

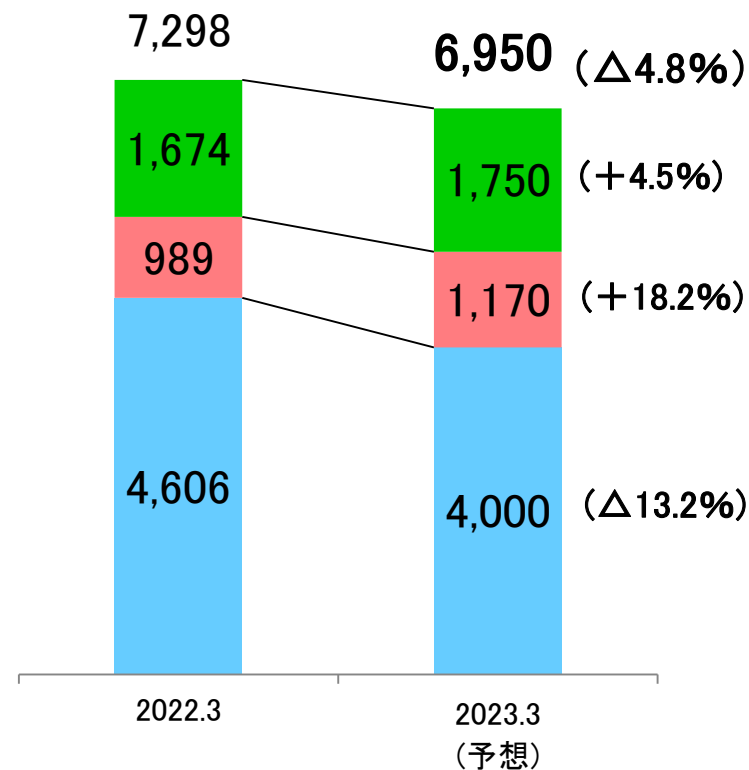
・「ボンド」「化成品」「工事事業」とともに、増収を見込む



営業利益

(単位: 百万円 () 内%は前期比)

- ・「ボンド」は、原材料価格高騰の影響を大きく受けることが予想されるため、減益見込み
- ・「化成品」は、売上増による増益見込み
- ・「工事事業」は、増益だが、資材価格高騰の影響を一部受ける見込み



ボンド

化成品

工事事業

(グラフ内には「その他」は記載しておりません)

新規開拓に特化した部門を新設

「新規分野」「シェアの低い分野」へ営業強化を図る



接着剤市場での事業領域拡大を目指す



電材分野

- ・電子・電機部品、自動車分野向けの製品開発推進



建材分野

- ・集成材を中心に新規開拓営業の強化



紙関連分野

- ・紙関連用途の中でもシェア率の低い業界向け製品のラインナップの充実



① 自社製品の開発を進め、利益率向上を図る

- ・材料科学研究所(2017年設立)との連携をさらに強化し、放熱・高耐熱樹脂等の製品開発の推進
- ・車載用途向け封止材、塗料業界向け中間原料などの「自社開発製品」の市場導入



「メーカー機能を併せ持った商社」へ



②「新規商材、新規顧客の開拓」を継続して強化

- ・成長分野への営業強化と新たなテーマの発掘

自動車

電子・電機

化学工業

- ・「丸安産業(連結子会社)」と協業し、仕入れ・販売の機会を増やす



①利益率向上を目指す

- ・高利益工事の受注拡大により利益率向上を目指す
- ・元請工事比率の向上



グループ連携を強化し、社会インフラ(道路・鉄道・橋梁)の補修・改修工事の取り込みのさらなる推進



②雇用確保の推進

- ・有資格者の採用を強化し、増員を図る
- ・社内育成の推進によりスキルアップ、資格取得の奨励を行う



人材不足の課題解消を推進し、事業拡大を継続する



③M&Aによる事業拡大

- ・「土木建設工事」等に関連する企業へのM&Aを積極的に実施

【直近の工事業会社のM&A実績】

2013年: 近畿鉄筋コンクリート(株)

2017年: 角丸建設(株)

2020年: (株)和泉(角丸建設(株)連結子会社)

2020年: 山昇建設(株)

①栃木工場内に「水性形接着剤」の新製造所建設（2024年度完成予定）

将来のコニシグループの生産モデルとなる製造所の構築

- ・自動化、省力化設備を導入し、コスト競争力の強化
- ・水性形接着剤の東西2拠点生産により輸送コストの削減



②新基幹システムの導入検討（2024年度稼働予定）

- ・既存システムの問題点を見直し、実用性が高く作業効率が向上するシステムの構築

③「サステナビリティ推進委員会」の設置

- ・サステナビリティ経営の推進
- ・TCFD開示に向けた検討



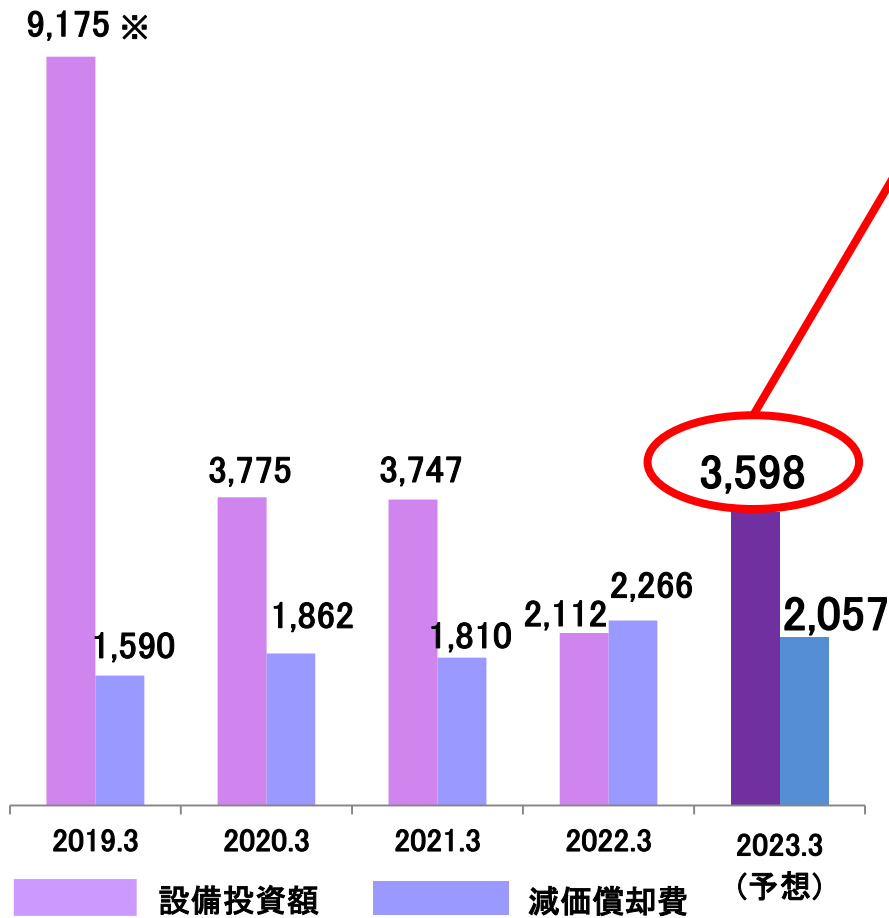
➡ ESG活動を推進し、持続可能な社会への貢献と持続的な企業価値向上につなげる

④「新中期経営計画」発表の延期

- ・原材料価格高騰の継続、ウクライナ情勢悪化等による更なる資源価格高騰や供給網混乱が懸念されている状況下で、先行きが非常に不透明であるため、発表を延期。

設備投資額・減価償却費

(単位:百万円)



今期の主な設備投資

- ✓ 水性製造所 新設(コニシ栃木)
- ✓ 新基幹システム導入
- ✓ ボンドエンジニアリング東京支店 建設



ボンドエンジニアリング東京支店 完成イメージ
(2022年9月完成予定)

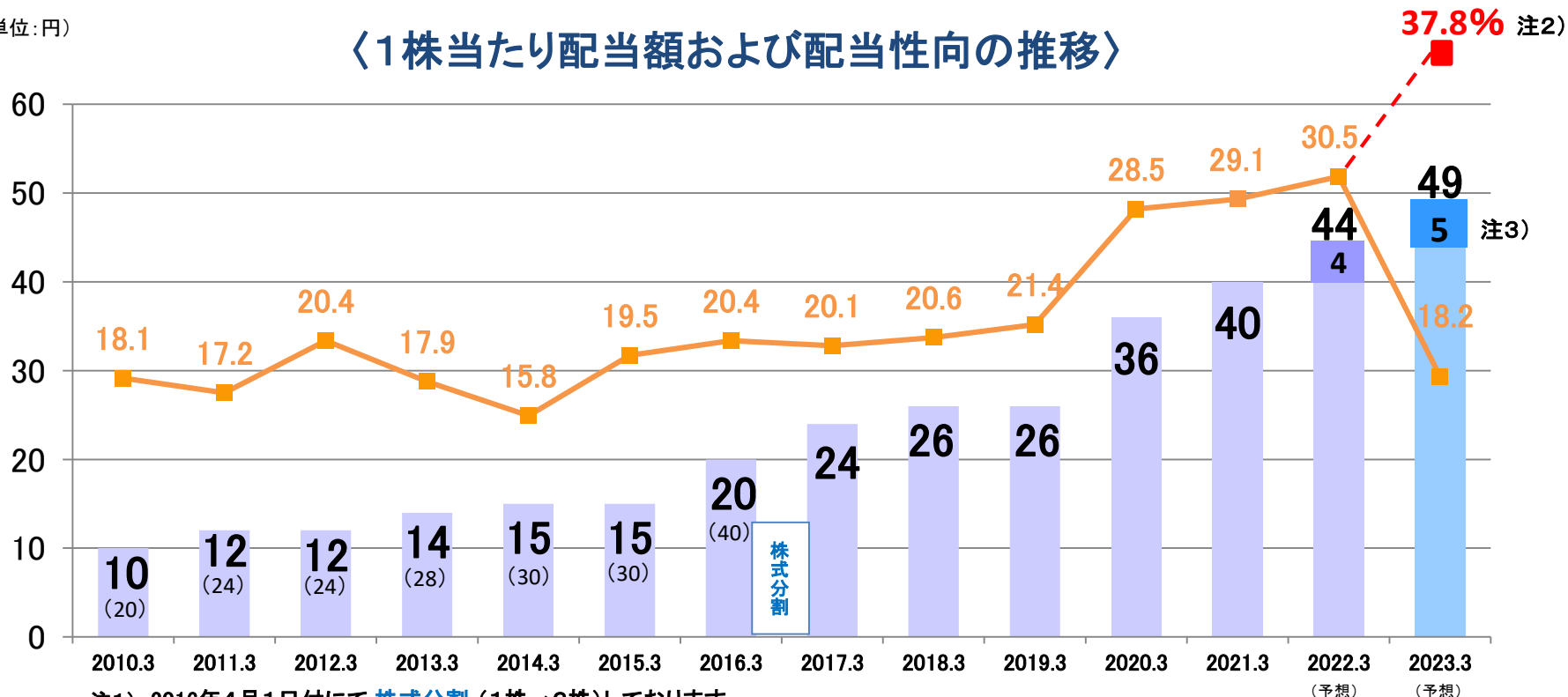
※主に本社ビル(北浜コニシビル)取得により増加

【株主還元に関する基本方針】

当社は、事業活動を通じて創出した利益を株主様へ還元するとともに、事業拡大のためのM&Aや自動化・省力化製造・物流設備への投資、新基幹システム導入等などに有効活用し、収益性向上の成長につながる投資を積極的に行って参ります。配当性向については、30%を目安に、毎期の業績等を勘案しながら利益還元を行い、継続的かつ安定的な配当を実施する方針です。

(単位:円)

〈1株当たり配当額および配当性向の推移〉



注1) 2016年4月1日付にて **株式分割** (1株→2株)しております。

2016年3月期以前の配当についての1株当たり配当額については当該株式分割調整後の金額を記載しております。

なお、()内には調整前の金額を記載しております。

注2) **事業活動に直接の関わりのない不動産売却益4,986百万円(税引き後)は除外して配当額を決定しております。**
当該影響額を控除した配当性向は37.8%となります。

注3) ボンド発売70周年記念配当5円の増配を予定しております。

